

自閉症支援者の為の夜間勉強会

奈良県自閉症協会

〒639-1055 奈良県大和郡山市矢田山町 84-10

助成事業の概要

自閉症支援には、自閉症の人を正しく評価し、現時点での認知能力、発達段階に応じた対応や支援内容を構築する必要がある。個々に応じた構造化で自閉症の人にわかりやすい環境を作る必要がある。今回は一般の人たちでなく、日常的に自閉症児者を支援している福祉施設や教育関係者を対象に、うまくいかない支援の問題点に対し、具体的なケースを取り上げての説明と基本的な知識を深めることで、自閉症の人の問題行動への対処法を学ぶ機会とした。平成 26 年 6 月 2 日から 10 月 6 日に渡り、5 回の講座を実施した。夏休みに当たる 8 月 18 日の午後 1 時 30 分から 4 時 30 分の実施を除き、全て午後 6 時 30 分から 8 時 30 分の夜間に実施した。我が国の自閉症支援の実践家として有名な中山清司氏、大中りよ子氏、宮本敦子氏を講師に迎えた。また、支援現場の実際の取り組みを題材にして学習を進めるため、ゆらくの里の杉本昌樹氏、西和養護学校の山本陽先生、かざぐるまの春名隆太氏の事例発表をいただいた。

事業の成果

時期について…日中は自閉症児者支援の現場に勤めている人たちにとって、仕事を終えて参加できる午後 6 時半開始のこの勉強会は大変好評だった。これまで、参加したい自閉症協会主催の講座などもあったが、なかなか仕事との日程が折り合わない為に参加することができなかった。今

回の日程はすごくよい、今後も参加したいとの声があった。

内容…奈良県自閉症協会ではこれまで、自閉症の啓発に力を入れ、多くの一般の人々を対象にした自閉症理解講座を毎年行ってきた。今回は、日頃、自閉症の人たちへの対処に難しさを感じている現場の支援者が参加対象であったため、みんな大変熱心に学習し、質疑等も熱を帯びたものであった。中山清司氏の指導により、自閉症の特性と支援の原則を学び、自閉症児者の個々の状態を正しく評価できないと適切な支援は行えないことや、支援がうまくいかないのは、本人の今持つ能力以上の要求をしていたり、負担をかけたり、状況の認識を混乱させているからであることを、記録ビデオ等で具体的に実際の場面でわかりやすく示していただいた。個々人それぞれの発達のステージに応じて、環境的に構造化を図り、支援していくことが大切であり、問題行動に対しては、ABA(応用行動分析) の手法などを使って行動マネジメントをしていく大切さを学ぶことができた。また、座学だけでなく、グループによる、模擬支援の実施や視聴覚機器を駆使しての体験型、参加者型の工夫された講義内容であり、とてもわかりやすく、有意義であったとの感想を得ている。

参加人数…当初 30 人から 40 人程度の少人数の講座を予定していたが、常に会場定員である 60 人程度の参加があった。ただ、会場が大和郡山市であったため、近隣の人しか参加できなかった為、今後は奈良県中南部でも開催して欲しいとの希望が多かった。また、まわりにもこの勉強会に

参加したい人がたくさんいるので、もっと回数を増やしてもらえないかとの希望もあった。

■ 成果の広報・公表

奈良県自閉症協会の広報誌「きずな」において、本事業の内容や成果を掲載していく。毎回の講座の様子は、奈良県自閉症協会のメーリングリストで逐次報告している。本会が運営するホームページ「きずな」<http://www.eonet.ne.jp/~asn/>にも今回の事業の参加募集を掲載し、これを見ての応募も多数あった。成果報告もホームページに掲載したいと考えている。対外的には奈良県の発達障害支援検討委員会や、発達障害支援センター「でいあー」との連絡会等の行政との話し合いにおいて、今回の事業の内容や講座資料、成果を発表していきたい。また、自閉症をはじめ、LDの会、ADHDの会、臨床心理士会、作業療法士会などで構成する奈良県の発達障害の集まりであるJDD ネット奈良のメンバーにも、今回の成果を伝えたい。今回の事業の真の成果は、参加者が各自学習したことを職場に持ち帰り、自閉症の人たちへの支援を実践してみて、療育的效果を上げることができるということであり、現時点では実践中であり、今後の朗報を待ちたい。

■ 今後の展開

奈良県自閉症協会では、自閉症理解講座を毎年おこなっている。当会は全国で一番最後にできた日本自閉症協会の支部であり、まず多くの県民に自閉症の正しい特性を理解してもらうことが大切であると考え、平成10年5月から今日まで、自閉症理解講座を続けてきた。以前に比べれば、県民の自閉症理解は、格段に進んできている。しかし、まだまだ、他県のように、スーパーバイザーとしての人材はなく、実践的な自閉症支援の質の

面では、多くの問題を抱えている。そこで今回は、自閉症の専門家や実践家を他県から招聘した。今回の参加対象は、日頃から自閉症者と接する、ある程度基礎を踏まえた人々に対する実践的で現場の役立つ講座内容であった。この企画は好評であり今後も是非続けていきたい。夜間学習会の形を取った今回の企画は思いの外、参加者からのニーズが高いことがわかった。今後は自閉症支援のスーパーバイザーの養成事業を展開したい。来年度もこの事業がつづけられるように、助成先を探したい。